

東部日本語ボランティアネットワーク 第32回定例会議事録

2023年7月22日(土) 三島本町タワー14:00~16:00

出席(6):石井、古橋、虎谷、高澤、久木野、相田

○情報共有

山口(大仁 にはん語かいわ会)事前メール

毎週木曜日定期的に継続中です。

梅祭り、和菓子作り茶話会など時々イベント(イオンイエローシートより予算を得ています)

- ・チリ人が雇用保険要望でクビに。就職探してハローワークへ行っています。
- ・ALT フィリピン人が検定合格目指しています。また、同僚を連れて来たり、三島、韮山も参加しています。中国人受験生と同じ長岡中勤務で様子見る反面、他生徒がやきもちと言って距離置く様子もあります。
- ・ALTを目指しているフィリピンで元英語の先生が昨年秋日本人と結婚で函南へ、(母親修善寺在住)が大仁、韮山、三島に通っています。英会話教室もやっています。みなさん、家庭や職場とは異なるコミュニティを求めています。
- ・一時国をしたベトナム人9月に戻り、11月以降は特定技能の予定だったがまだなれていません。会社は社長さん同士の折り合いで転職、両社で利用されている様子あります。
- ・中国人レストラン経営者新たに不用品回収スタート、古物商など許可申請手続きを元韮山学習者とすすめました。
- ・中国人中学3年、学校も教室も休みがちです。部活が終わってつまらないようです。
- ・ベトナム新規、エンジニア家族も来る予定です。
- ・最近仕事が忙しいベトナム人奥さん妊婦さん年内に産まれる予定です。
- ・活動資金のためソロプチミストの地域ボランティア賞に教室活動を応募しました。活動資金が出来たらスピーチコンテストを検討したいです。

中村(熱海国際交流協会)事前メール

掲載なし

西村(Grandeur Global Academy 沼津校所属)事前メール

1 日本語教育機関(法務省告示 日本語学校)

・どこの学校も学生数が大幅増、アルバイトの依頼も増加。よって、トラブルや問題も増えてしまい、学生指導、学生管理の重要性が増している。より一層、地域住民(日本人)との交流を促進し、共生できるようにしていきたい。留学生以外の、地域の就労者(介護、ビジネス等)、生活者(就労者の家族、日本人の配偶者など)、年少者(呼び寄せで来日した10代後半)の学習希望者も増加。ビジネス日本語希望者は、仕事での高度な日本語のやりとりを求めている。直接的な関わりは少ないが、特定技能がかなり増加、あれこれ言われているが技能実習も増加している。

・認定校制度、登録日本語教師（国家資格化）等に関する文化庁審議を時々傍聴。やっと本格的に話し合いが始まったが、課題山積といった印象。秋にパブリックコメント募集予定とのこと。学校としては、審議の状況を注視しながら、どのような教育を目指すのかを問い直しつつ、制度決定に備えておく必要を感じている。教師は全国的に不足気味のようなのである。制度の変更を前に、日本語教育能力検定試験合格が、より一層重視されている。

・私、個人としては、地域日本語教育関連で、長泉町の日本語教室（地域日本語教育スタートアッププログラム）の日本語指導者、および、静岡県による「令和5年度オンラインによる対話交流型初期日本語教室」のICTコーディネータを担当することになった。地域在住者が増える中で、私自身や学校が果たせる役割を、初心にかえて考え、地域日本語教育に貢献できればと思っている。

石井（のびっこクラブみしま）

1. 英検、日本語能力試験、高校受験サポート

英検は、日本で「強み」を活かすために受験を勧めている。

12月の日本語能力試験に6人受験して全員合格。対策講座を開いた。

高校受験…私立高校へ3名、全日制県立普通高校へ1名進学。

2. イベント

①2/18、「外国ルーツの子どものための就学ガイダンス」

主に小学校入学者（保護者）の不安を軽減することを目的とした。

資料は多言語版を用意した（静岡県教委の「ようこそ！日本の学校へ」と文科省資料）。

保護者の声「わからないことがわからない、とにかく不安」

②元のびっこ学習者による体験発表会

4月から社会人（正社員採用）になる2人に、今までのことを発表してもらった。

「みんなから言われたからじゃなくて、自分がかんばりたいこと、それが一番」

③こどもの日・七夕お楽しみ会…飲食は、まだしていない。

3. その他

①静岡県こども家庭課「こども居場所リスト」に登録した。→食料支援や助成情報が届く。

②のびっこクラブ大学生グループが始動した。…Instagram発信、行事の企画運営など。

③配布物

順天堂大学保健看護学部やさしい日本語研究室作成「痛みのオノマトペ言語対比表」

<https://www.juntendo.ac.jp/assets/abm00041286.pdf>

三島北地区地域包括支援センター主催「無料家族介護者教室9/1」のお知らせ

虎谷（沼津国際交流協会、沼津親子にほんごひろば 他）

・親子にほんごひろば：第五地区センター、今沢地区センターにて日曜午前実施。5月から参加者が増えていて、ボランティア1人に対し外国人2人のこともある。

・ 静岡県教育委員会：来日児童生徒が増加。学校からの派遣要請も増え、今年度、熱海市をはじめ、新規の学校からも派遣要請があり訪問している。6月に伊豆市の幼児教育ステップアップ研修の要請があり、母語の重要性などについて話をしてきた。SIR発行の『オレンジガイド』を小中学校でも勧め、子どもたちのタブレットにダウンロードして、保護者面談の時などにも利用してもらっている。子どもたちの取り出し指導は週に1〜3時間程度で、あとは在籍学級で授業を受けるので、先生方にはユニバーサルデザインの授業をしていただき、子どもたちが少しでもわかった感を持てるようお願いしている。

相田（沼津国際交流協会）

- ・ 4月から教室のコロナ対応が変更になり、セパレータの使用をやめた。マスク着用は義務のまま。
- ・ 学習者の数は少し増えて15人前後か。新人講師があまり入ってきていない。

7/8 ミングリングパーティー『好きな食べものや飲みものを紹介しよう』開催

場所：サンウェルぬまづ+オンライン(Zoom) 参加者：学習者8名、スタッフ10名

好きな食べ物を、スタッフ、学習者全員が一人ずつ紹介していきました。参考となるひな形もお渡しして、スタッフがお手本も示したので、学習者もさほど難しくなく発表できていたようです。学習者は母国のご飯の紹介が多かったのに対し、スタッフはお菓子の紹介が多かったです。対面参加の学習者とは、終了後に交流する時間を作ることができました。楽しんでくれたようで良かったです。

○振り返り（スタッフからあがった意見）

- ・ zoom参加のための連絡手段として、QRコードを使ってはどうか。
（今までイベントなどで使われた方はいますか？）
- ・ 今後もオンライン開催をする必要があるかなど、考える必要がある。
- ・ 全員対面の方がもっと盛り上がったかも。

高澤（ふじのくに多文化共生ネット）

- ・ Facebookを利用して、国、県、市町、信頼できる団体の情報をシェアして発信している。
- ・ 沼津市ボランティア連絡協議会の理事団体として沼津市第五地区社協からの相談に乗っている。

・ 2/18 長泉町のスタートアップ事業の日本語ボランティア講座を見学。

文化庁地域日本語教育コーディネーター研修友だちの一人が文化庁のアドバイザーとして関わっているため案内をいただいた。

去年から静岡県の対話交流型日本語教材のことで総括コーディネーターの鈴木ゆみさんと連絡を取り合っていたため鈴木さんからも案内をいただいていた。

日本語ボランティアに関心がある町民約100名が参加していて、町の職員もがんばっている様子だった。

・ 5/26 ふじのくに多文化共生ネットが設立10年を迎えた。

前半5年は全力でがんばったが後半は少し息切れしてしまったのと、コロナ禍もあり、たいした活動ができなかったのが10周年記念は2〜3年延期することにした。

・6/9 ふじのくに夜間中学の説明会に参加した。

・7/2~10/22 静岡県地域日本語教育体制構築事業、令和5年度日本語指導者養成講座に参加している。後半で、静岡県対話交流型初期日本語教材を試してみたいと思っている。

・7/15~ 沼津市第五地区社協から、認知症のペルー人の医療機関受診に通訳として同行してくれる人はいないか？との相談を受け、第五地区包括センターの所長と話した。
認知症になったら、せっかく覚えたカタコトの日本語をほとんど忘れてしまって、日本語でのコミュニケーションが取れなくなってしまったとのこと。今後このようなケースが増えていくことを心配されていた。

2/22 NPO 法人国際教育サポーターズ協会の会合に参加。今年数回参加している。代表が市議会議長になり多忙になったため代表が変わった。将来ふじのくに多文化共生ネットの「プチウォーク沼津再発見」共催、サンウェルぬまづで予定している多文化交流サロンへの協力等の連携をしていく。

久木野（伊豆の国市国際交流協会 日本語話そう会）

コロナが落ち着いてきたこともあり、外国人の参加が増えてきました。伊豆の国市にきている ALT の参加もあります。三島市から参加している中国人、また沼津市で働いているインドネシア人の参加も予定されています。教える方が少し足りないときがあります。

中国人の中学生、最近不登校気味で、会にも参加が少なくなり、気になっています。

6月に、恒例となった、田植えの体験会に参加しました。また、会に長く通っていたベトナムの方が、ベトナムに工場を建てるために、管理職となって帰国するので、送別会を行いました。

なお、会を実施するにあたり、伊豆の国市から会場費の減免をうけていますが、他に受けている市からの補助金との関係で、二重の補助と、問題として指摘を受けており対応に苦慮しています。

古橋（SIR）

・今年度、新規事業としてブラジル人学校生徒のキャリア形成支援事業を実施している。

県内にブラジル人学校は7校、託児所の子どもも入れて約1000人が在籍。昔は帰国前提だったが、今の生徒たちは卒業後も日本に留まっている。中学または高校卒業後、親と同じ派遣の工場労働に流れている現実。浜松では日本の中学卒業後にブラジル人学校の高等部に入学してくる子どももいる。日本語もポルトガル語も不完全なダブルリミテッドの生徒が多い。

・西部では派遣でも日本語力がないと仕事が見つからない状況が進んでいる。企業は人材育成を含め特定技能への切替に焦点を充ててきている傾向がある。とはいえ、定住者はこれからもずっと日本社会で暮らしていく人たち。日本語力が不十分な定住者はこれからますます厳しくなっていくだろう。

・誠恵高校での日本語クラス。すっかり定着、東部の拠点校となり、今や40人以上の外国ルーツの高校生が在籍している。GGA日本語教師と誠恵高校の教師が毎週交代で日本語クラスを担当しているのが特徴。昨年はコロナで外から留学生が入ってこなかった影響で、通常であればとても合格は難しいように思われた日本語力の生徒2名が県内の大学に合格できた。後輩にとってはよいロールモデルとなった。

・県の地域日本語教育。東部地域で取り組みに関心がありそうな自治体があれば教えてほしい。